

看護学教育評価
評価報告書

受審校名 昭和大学保健医療学部看護学科

(評価実施年度) 2020年度

(作成日) 2021 年 3 月 5 日

一般財団法人 日本看護学教育評価機構

I. 総合判定の結果

(適合 不適合 保留)

II. 総評

昭和大学保健医療学部看護学科は、医系総合大学の中で、看護の専門職を育成する学科として位置づけられている。大学の建学の精神「至誠一貫」に則り、真心と情熱をもって保健医療の発展と人類の健康と福祉に貢献することを教育目標に、広い教養と豊かな人間性、継続教育、チーム医療、論理的思考と豊かな感性を養う医療人の育成が行われている。教育理念や教育目標は、ディプロマ・ポリシーに合致している。カリキュラムの柱のひとつである「多職種連携教育」は、1年から4年次まで一貫したカリキュラム設計として反映されており、大きなメリットをもたらしている。

教育課程におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容は、看護学教育モデル・コア・カリキュラムで示されているコンピテンシーマトリックスや、コンピテンシーに基づいた履修系統図が明示され、教育内容の一貫性と整合性が認められた。シラバスにおいては、各科目の到達レベルが明示され、到達度を測る評価方法・評価基準も公開されており、成績区分も明確である。

教員組織は、大学の方針のもと、教育・研究において自立し責任をもって各科目運営できる講師以上の教員によって構成される。臨地実習においては臨床教員制度を導入し、教員と同様の役割を担っており、教育と臨床のユニフィケーションとして大きな特色といえる。教員採用・昇任の基本方針や基準は、規程に明確に定められ、新任教員育成や教員間のピアサポート等は、FDや研修が必修化され大学全体で取り組む制度が確立されている。

教育方法として、アクティブラーニングが推奨され、学修目標を達成する上で適切な教育方法が選択されている。教育環境は、統括研究推進センターの管理のもと、学習効果を得ることができる教室や器材が確保され、学生数や教育方法からみて十分な教育環境が整っている。実習環境としても、専門性の高い8つの附属病院を有し、その他に多彩な実習を行える設備・体制が整っている。指導体制は、臨床教員と実習指導者の両者で担当する少人数制で、手厚い指導が受けられる。感染対策、事故発生時の対策、情報セキュリティ、ハラスメント予防、そして情報セキュリティなどの対策は整えられている。学生支援体制として、学生生活を支援する指導担任制と学生の学修を支援する修学支援の二つの制度があり、学生ごとのテラーメイドな手厚い個別支援を行っている。

教育課程の評価は、教育推進室、教育委員会およびプログラム評価委員会が組織的に連携して、継続的に評価・改革するPDCAサイクルが整えられ、評価結果は公表されている。学生からの授業評価は、全科目について科目終了時に実施され、評価データは教員の振り返りに活用され、カリキュラムの改善が行われている。卒業生からの評価について、全学IR(Institutional Research)室およびIR室運営委員会の主導で、学生の学修動向に関するデータ収集・分析を実施し、進級率、国家試験合格率、就職率ともに高率である。卒業生に対する教育プログラムの満足度・卒後の動向調査については、統括教育推進室が実施しており、学生からの教育に対する評価は高い。今後、卒業生や雇用者からの評価結果を生かし、さらなる改善への取り組みが期待される。

入学者選抜にあたっては、求める人材がアドミッション・ポリシーに明確に示され、特に特色である一年次の全寮制の共同生活を経験しながら、主体的に学習に取り組むことができる人材を求めていることも明示されていた。入学試験では、アドミッション・ポリシーに見合う能力を評価する選抜方法・内容がとられており、入試常任委員会とその下部委員会で公平・公正を担保する組織的な取り組みが行われて

いた。また、IR室運営委員会において、入学から卒業に至る学生の様々なデータ分析結果と社会の動向やニーズを踏まえた組織的な検討が行われており、募集定員や選抜方法の見直し・改善が行われている。

なお、提出された自己点検・評価報告書において全般的に現状の記載はみられるが、どのようにPDCAをまわして自己点検・評価しているのか、その形跡を本報告書から読み取ることが困難であった。今後は、長所や課題を明確にし、課題に対する対策や対策後の改善状況について評価し、実績などの根拠データを用いて他者にわかりやすく記載されることを期待する。